

学校教育実践上の努力点

新潟市教育委員会

「新潟市教育ビジョン」では、平成20年度まで重点的に取り組む施策として5つの「学びの扉」を挙げている。その中で、学校教育では次の3つを推進する。

- 確かな学力、豊かな心、健やかな体をはぐくみます。
- 可能性と個性を伸ばす特別支援教育を推進します。
- 学・社・民の融合による教育を進めます。



「学校教育実践上の努力点」では、「新潟市教育ビジョン」の実現を目指し、平成19年度から2か年にわたって重点的に取り組む内容を精選し、具体的に示した。

努力点に示された取組内容は、全学校が、地域の特性を生かしつつ、また、脈々と積み上げられてきた学校の特色を大切にしながら、各市すべての幼児児童生徒のため、共通して教育実践に取り組む指針とする。

I 地域と共に歩む学校づくり

政令市新潟の目指す学校は、「学校間連携と外部の力を活かした学校づくり」や「地域・保護者・学校が共に学校教育を考える参画型のシステムづくり」によって、特色ある教育を創造する学校である。各学校では、地域のもつ様々な教育資源を生かすとともに、幼児児童生徒を見守り育てる地域の人々の意見を反映させることが大切である。

- 学校の教育課題の解決を目指し、達成目標と方策とを明確にした「学校教育ビジョン」を作成し、学校教育に対する保護者と地域住民の理解と協力を努める。
- 中学校区における共通課題を明確にし、校種間の連続性のある取組を行うなど、児童生徒の9年間の成長を見据えた教育課程の編成と教育活動の改善に努める。
- 学校と地域とをつなぐ各組織のネットワークをつくり、教育支援のための人材の発掘・活用に努める。
- 学校の自己評価、外部評価や学校評議員制度を活用して、保護者や地域住民への情報提供と意見の収集に努める。

II 自分の力に自信をもち、心豊かな子どもを育てる小・中学校教育

小・中学校教育では、「学力とともに、健康・体力に自信をもち、互いの人格を尊重し、共に支え合う思いやりの心をはぐくむ『心のバリアフリー』を進めることができる児童生徒」を目指す。

各学校では、目指す児童生徒を育てるために、中学校区で連携協力し、以下の1から7の項目に示す努力点の充実を図ることが大切である。

1 確かな学力の向上

■ 学ぶ目的意識を高めるキャリア教育

- 現在及び将来の生き方について考えさせる学習を通して、児童生徒に学ぶ目的意識と学び続ける意欲をもたせるように努める。
- キャリア教育の全体計画を整え、全教育活動を通して、児童生徒の進路発達にかかわる諸能力を育成するように努める。

(注) 進路発達にかかわる諸能力とは、国立教育政策研究所が例示する4能力（人間関係形成、情報活用、将来設計、意思決定）などを意味する。

■ 基礎・基本の定着と学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力の向上を図る教科指導

- 1単位時間のねらいを明確にするとともに、時間の終わりに一人一人の達成状況を詳細に把握して、「分かる授業」の実施に努める。
- 単元構成に体験的な学習活動や問題解決的な学習を位置付けるとともに、興味・関心を高める教材の開発や課題・資料提示を行い、「魅力ある授業」の実施に努める。
- 家庭との密接な連携を図り、家庭学習習慣や読書習慣の確立に努める。

■ 「自ら学び自ら考える力」の育成を中核に据えた総合的な学習の時間

- 育てたい力と、各教科、領域との関連を明確にし、小・中学校間の学びの接続を図った授業展開に努める。

2 豊かな心の育成

■ 命を大切にすることを育てる道徳教育

- 自然や他者との触れ合いなどの体験活動やボランティア活動を生かした、心に響く授業実践に努める。
- 家庭・地域社会及び中学校区内の学校との一層の連携を図った倫理観や規範意識の育成に努める。

■ 豊かな人間関係をつくる特別活動

- 児童生徒による自治的・自発的な活動を積み重ね、年間を通じた学級づくりの活動の時間と場の確保に努める。

■ 自己指導能力をはぐくむ生徒指導

- 全教育活動を通して、きめ細かな児童生徒理解に基づいた指導により、よりよく人とかわかっていく力の育成に努める。
- 不登校未然防止中学校区プロジェクトで把握される月例欠席状況データの分析結果を活用し、不登校の未然防止と改善・解消に努める。
- 家庭や地域社会、中学校サポートチーム、関係機関、近隣学校などとの行動連携と校内指導体制の充実により、いじめの根絶及び様々な問題行動の未然防止・解決に努める。

3 健やかな体の育成

■ 運動に親しみ、進んで体をきたえる学校体育

- 児童生徒の運動技能や学び方の習得状況を踏まえ、小・中学校をつなぐ体育・保健体育科の指導計画の改善と実施に努める。
- 児童が思い切り体を動かして遊んだり、様々な運動に親しんだりすることができる「時間」「空間」「仲間」を保障する環境づくりに努める。
- 児童生徒の体力実態を踏まえ、発達段階で重点とする体力や走・跳・投の運動能力を高める方策を明確にして体力づくりの推進に努める。

■ 明るく活力ある生活を支える健康教育・食育

- 健康3原則に関する教科，領域の指導に当たっては，専門性を有する養護教諭や学校栄養職員が参画する授業づくりに努める。
- 児童生徒の食生活の課題を明確にし，「食に関する指導の手引き」及び「食に関する指導実践事例集」を活用した指導に努める。
- 学校保健委員会やPTA組織などを活用し，「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」などの健康的な生活習慣の確立に向けた啓発活動に努める。

4 世界と共に生きる力の育成

■ 異文化理解と共生に向けて行動する力を育てる国際理解教育

- 国際理解教育の全体計画及び小学校では英語活動の年間活動計画を作成するとともに，地域の人材やALTを活用しながら，体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れた授業展開に努める。

■ 情報化社会に生きぬく力を育てる情報教育

- 学習のねらいを明確にしてICTを活用し，児童生徒の情報活用能力と情報モラルの向上を図る授業展開に努める。

■ 実践する力を育てる環境教育

- 中核とする教科，領域の指導内容を明確にするとともに，児童生徒と教職員とが協力して資源の「3R」と省エネに取り組む環境教育の実践に努める。

(注)「3R」とは，Reduce（ごみを減らす），Reuse（捨てずに繰り返し利用する），Recycle（原料として再利用する。)

5 可能性と個性を伸ばす特別支援教育の推進

- 校内委員会を中心に，特別な配慮が必要な児童生徒の実態や発達に合わせた教材，指導の方策を明らかにして，全校体制による支援に努める。
- 特別支援学級及び特別支援学校においては，一人一人の学習意欲を高める指導方法や教材・教具を工夫し，生活スキルや基礎学力の定着に努める。
- 自校の取組を「学校教育ビジョン」に示すとともに，保護者や地域住民に説明や広報などを積極的に行うことにより，特別支援教育の理解推進に努める。

6 人権を守り共に支え合う社会の推進

- 副読本「生きるシリーズ」「子どもの権利条約パンフレット」「男女平等教育パンフレット」の活用計画を含む，人権教育，同和教育の年間指導計画の整備と確実な実践に努める。
- 「生きるシリーズ」などを活用した授業研修を含め，年間2回以上，同和教育を中核とした人権教育校内研修会の計画的な実施に努める。

7 子どもの安全確保と安全管理

- 保護者や地域住民，隣接する学校，セーフティ・スタッフ及び警察など関係機関と連携し，校内や通学路及び学区全域における児童生徒の安全確保に努める。
- 現地指導や模擬訓練により，危険を認知する力や危険を回避する技能が一人一人に確実に定着するよう努める。

Ⅲ 「生きる力」の基礎を育てる幼稚園教育

各園では、幼児が豊かな体験を積み重ねる中で自己を形成していくことができるよう、幼児の主体的な活動を促す教育環境の創造、家庭や地域社会と連携した取組について、一層の改善・充実を図ることが大切である。また、幼児の発達や学びの連続性を確保するよう、小学校との連携を深めることが大切である。

さらに、親育ちの支援となるよう、子育ての喜びを共感する場や子育てのあり方を啓発する場などを設定することが大切である。

- 一人一人の発達の実情や興味・関心、思いなどを大切にしながら計画的な環境構成の工夫に努める。
- 地域の自然や人、行事、施設とのかかわりを重視した教育活動の見直しと改善に努める。
- 年間、2回以上の小学校との保育・授業参観、合同協議会、幼児と児童同士の交流の実施に努める。
- 親同士のつながりが生まれるような場の設定や子育て相談などの実施に努める。



Ⅳ 自己を生かす力を育てる高等学校教育

各学校では、一人一人が学力の向上と自己実現とを目指し主体的に学習活動に取り組み、充実した学校生活を送ることができるよう、学校や生徒の実態に即した教育課程の編成、キャリア教育及び教育活動の工夫・改善に努めることが大切である。

また、中学校との連携を深め、社会の変化に対応し、市民に期待される特色ある学校づくりを推進することが大切である。

- 生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望に応じ、主体的な進路選択を可能とするガイダンス機能と支援体制の充実に努める。
- 1単位時間のねらいを明確にし、基礎と発展との配分を工夫し、学ぶ意欲や思考力などを向上させる授業展開に努める。
- 生徒の進路希望達成に向けた、学校や家庭などにおける自主的な学習習慣の確立に努める。
- 教員全体で、年間を通して、日常的な教育相談の機会を設け、一人一人を大切にする生徒指導に努める。
- 中学校との連携協議会で授業公開や情報交換を行い、教育課程や学習環境、学校生活の連続性の強化に努める。
- 「生きるシリーズ」などを活用した授業をするなど、正しい人権感覚を磨き、人権意識を高揚させる人権教育、同和教育の実践に努める。

